

研究タイトル：

サンタバーバラ市の都市・建築デザイン



氏名： 大森 峰輝 / OMORI Mineteru E-mail: omori@toyota-ct.ac.jp

職名： 教授 学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 日本デザイン学会, 日本都市計画学会, 日本建築学会

キーワード： 都市景観, 歴史的資産, 市民活動家

技術相談
提供可能技術：
・都市景観
・歴史的資産を活かしたまちづくり
・デザイン・ガイドライン

研究内容：

サンタバーバラ市は、ロサンゼルス市の北西約 150km のところに位置する人口約 88,000 人の都市である。1925 年に発生した大地震で大きな被害を受けたが、市民活動家らの活躍によって6ヶ月も経たないうちにスペイン風の都市として蘇った。この統一感のある街並みに加えて、美しい自然景観を有することから人気のリゾート地として知られている。

サンタバーバラ市は第2次世界大戦後、人口の増加と住宅建設ブームを経験した。そのため、1950 年代半ばまでに市街地の建築的特性が変化し始めた。開発圧力と歴史的アドベ様式の建築物(粘土とわらの混合物を日干した煉瓦またはその粘土で造られた建築物)の幾つかが消失したことに対応し、1960 年にサンタバーバラ市では歴史的建造物条例が採択された。続いて、エル・プエブロ・ワエホ・ランドマーク地域(スペイン語で古い集落を意味し、以下 EPV という)が指定され、新築される建築物の様式に制限が加えられた。さらに、歴史的な重要建築物が指定されていった。その後、EPV は拡張され、1982 年に建築物等のデザイン規定を具体的に示した EPV デザイン・ガイドライン(以下、EPV ガイドラインと言う)が採択された。

本研究では、EPV ガイドラインの考え方と規定等について調査し、コミュニティがどのように歴史的資産を活かしながら魅力的な市街地環境を創造・保全し、デザイン規範に関する知識を共有しているのかを考察した。

- 1) 市民活動家や非営利組織の活躍によって、長期に渡って歴史的資産を活かした魅力的な市街地環境を造り上げることができた。ガイドラインに加えて、多くの計画や規定等が立案されていった。
- 2) ガイドラインの目標は、厳格なデザイン審査を通して、スパニッシュ・コロニアル・リバイバル様式で統一された地域を継続的に創造・保全し続けていくことである。同時に、歴史的建築物や他様式の建築物が存在する特徴ある地域も重要な資源と位置付け、その保全を図っている。
- 3) ガイドラインには、都市・建築デザインの特徴、考え方や規定等が明確に示されている。これらへの住民の関心は高く、また身近な建築物・ディテール等の模範的事例の存在がデザイン規範に関する知識の共有を可能としている。



図1 現在の EPV



図2 パート I の様子



図3 カブリロ・ブールバードの様子

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	